



選舉權ニ關スル調査資料

衆議院議員選舉法調査會

選舉權ニ關スル調査資料

目次

第一 年齢ニ關スル件

- 一 年齢ニ關スル我國選舉法ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由……………一
- 二 年齢滿二十歳以上ノ男子數調……………三
- 三 年齢ニ關スル外國立法例……………三

第二 性ニ關スル件

- 一 女子選舉權ニ關スル我國ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由……………五
- 二 我國現行法上女子ノ公務ニ參與スルコトヲ認メタル立法例……………六
- 三 女子選舉權ニ關スル外國立法例……………七
- 四 英國ノ婦人選舉權ノ内容……………九

第三 住所ニ關スル件

- 一 住所ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由……………一
- 二 住居ノ要件ニ關スル外國立法例……………一三

第四 納稅資格ニ關スル件

- 一 納稅資格ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革……………一五
- 二 普通選舉論ノ要旨……………一八
- 三 普通選舉反對論ノ要旨……………二二

四 納稅資格ニ關スル外國ノ立法例……………二二三

第五 教育資格ニ關スル件

一 教育資格ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由……………二二五
二 教育資格ニ關スル外國立法例……………二一九

第六 獨立ノ生計ニ關スル件

一 獨立ノ生計ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ論據……………二三三
二 獨立ノ生計ニ關スル行政裁判所判決例……………三四
三 獨立ノ生計ニ關スル外國立法例……………二六

第七 兵役義務ノ完了ニ關スル件

一 兵役義務完了ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由……………三六
二 兵役義務ノ完了ニ關スル外國ノ立法例……………三七

第八 戸主ニ關スル件

一 戸主選舉論ノ要旨……………三七
二 戸主ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革……………三七
三 戸主選舉權ニ關スル外國立法例……………三七

第九 缺格者ニ關スル件

一 我國選舉法上ノ選舉權缺格者ニ關スル立法及法案ノ沿革……………三八
二 各國下院議員選舉缺格者一覽……………四四

第一〇 各國下院議員選舉權內容並沿革及

投票ノ狀況ニ關スル統計

一 下院議員選舉權者數ト人口數トノ割合……………五〇
二 各國下院議員選舉資格要覽……………五一
三 各國ニ於ケル選舉制度發達ノ沿革……………五四
四 各國ニ於ケル投票ノ狀況……………六〇

選舉權ニ關スル調査資料

第一 年齢ニ關スル件

一 年齢ニ關スル我國選舉法ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由
 (一) 立法ノ沿革

年 次	年 次
二十五年	明治二十三年
二十五年(政府提案)	明治三十三號年
二十五年	大正六年

(参照) 一、滿二十年ヲ以テ成年トス (民法第三條)

二、貴族院(イ)有爵議員(貴族院議員令第四條)三〇五年
(ロ)多額納税議員(同第六條)

三、地方制度總テ二十五年ナリ (府縣制第六條、市制第十四條、町村制第十二條等)

(二) 法案ノ沿革

年次	大正八年	大正九年	大正九年七月	大正十年	大正十一年
憲政會案	四十一議會	四十二議會	四十三議會	四十四議會	四十五議會
國民黨案	二十年全	上全	上全	上全	上全

(三) 理由

(イ) 二十歳説ノ主張

今日ノ日本ノ有様ニ照ラシテ二十年以上トスルヲ適當トス(第十二回衆議院議員)成年ニ達シタル者ハ治産ノ能力モアリ又兵役ノ義務モ負フテ居ルモノナルカ故ニ選舉權ヲ與フルモ差支ナシ(第十三回衆議院)成年者ハ既ニ法律上總テノ行爲ノ自由ヲ有ス外國ニモ其ノ例アリ(第十四回貴族院)滿二十年以上ノ男子ハ既ニ徵兵ノ義務ニ服シ又法律上社會上自己ノ行動ニ付凡テ責任ヲ負フモノナルカ故ニ之ニ選舉權ヲ與フルハ當然ナリ(第十四回衆議院)

(ロ) 二十五歳説ノ主張

二十年ノ時代ニアリテハ仍學校ニアルカ又ハ學校ヲ出テタル時ニシテ思想未タ定ラス、此ノ際ニ於テハ之ニ政治上ノ大權ノ與ヘサルヲ可トス(第十二回衆議院)成年ニ達スルモ尙修業年齡期ニアルモノニハ選舉權ノ與ヘサルヲ可トス(第十三回貴族院)

二 年齡滿二十歳以上ノ男子數調

年齡	滿二十歳以上ノ男子數調
滿二十歳以上	一五、七八九、四八二
滿二十五歳以上	一三、三九八、二三八
滿三十歳以上	一、三二一、三四七

備考

- 一、大正七年十二月三十一日現在數ハ本籍人口ニシテ大正十年十二月刊行國勢院統計書ニ據ル
- 二、大正九年八月一日現在數ハ地方制度改正ノ參考資料トシテ内務省地方局調査ニ係ル現住人口トス

三 年齡ニ關スル外國立法例

國名	性別	現行選舉資格年齡	現行民法ノ成年期
英吉利	男子	二一	二一
佛蘭西	男子	二一	二一
獨逸	男子	二〇	二一
北米合衆國	男子	二一	二一
	女子		
	女子		

國名	性	現行選舉資格年齢	現行民法ノ成年期
國太利	男	二	二
伊太利	男	二	二
白耳義	男	二	二
瑞西	男	二	二
瑞西	子	〇	〇
埃太利	男	二	二
埃太利	女	〇	〇
露西亞	男	一	二
露西亞	女	八	一
普魯西	男	二	二
普魯西	女	〇	一
丁林	男	二	二
丁林	女	五	五
和蘭	男	二	二
和蘭	女	三	三
西班牙	男	二	二
西班牙	子	五	五
波蘭	男	二	二
波蘭	女	一	一
ナエツクスロバキヤ	男	二	二
ナエツクスロバキヤ	女	一	一
極東共和國	男	一	二
極東共和國	女	八	一?
瑞典	男	二	二
瑞典	女	三	三
諾威	男	二	二
諾威	女	三	三
加奈陀	男	二	二
加奈陀	女	一	一

遼洲聯邦	土耳古	希臘	愛法草案(關)
男	男	男	男
女	子	子	女
二	二	二	二
一	五	一	一
二		二	二
一		一	一

第二性ニ關スル件

一 女子選舉權ニ關スル我國ノ立法並ニ法案ノ沿革及其ノ理由

(一) 立法ノ沿革

未タ女子選舉權ヲ認メタルモノナシ

(二) 法案ノ沿革

未タ女子選舉權ニ關シ法案ノ提出セラレタルモノナシ

(三) 理由

婦人ニ對シテ選舉權ヲ與ヘルコトニ付テ内務大臣ノ御意見如何(高木益太郎問)婦人

ニ選舉權ヲ與ヘル必要ハナイト思ヒマス(第二十八回衆議院原内務大臣答辯)婦人ト男子トヲ區別

スルノ理由無シ且國會ハ國民全部ノ縮圖タルヘキモノナルヲ以テ女子ニ對シテ

選舉權ヲ拒否スヘキモノニアラス(第四十一回貴族院山脇氏答)選舉權ノ擴張ハ時代ニ相應シ

順ヲ追フテ爲スヘキモノデアルト思ヒマス(珠次内務大臣答辯要旨)

二 我國現行法上女子ノ公務ニ參與スルコトヲ認メタル立法例

關係條文	内容
地方制度 舊市制第十四條第二項 舊町村制第十二條第二項	帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最も多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリ多ク時ハ第九條第一項ノ要件ニ當ラズト選舉權ヲ有ス
水利組合 水利組合第二項法 水利組合第二項法	組合會議員選舉人ノ資格議員ノ定數任期及選舉ニ關スル事項ハ組合ノ規約ヲ以テ定ムルベシ
農會 農會法第十一條	市町村ノ地區内ノ耕地牧場又ハ原野ヲ所有スル者及其ノ地區内ニ於テ農業ヲ營ムル者ハ市町村農會ノ會員トス
商業會議所 商業會議所第九條第一項 商業會議所第十條第二項	一、帝國臣民又ハ帝國ノ法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地 區内ニ營業所又ハ事務所ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員ノ選 舉權ヲ有ス (一) 自己ノ名ヲ以テ或種ノ行為ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者 (二) 自己ノ名ヲ以テ製造及加工ニ關スル行為ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅 ヲ納ムル者 (三) 取引所營業稅ヲ納ムル取引所 (四) 礦產稅ヲ納ムル礦業業者 (五) 賣場營業稅ヲ納ムル賣場業者 二、前項各號ノ一ニ該當スル者ノ業務ヲ執行スル社員取締役、理事、理事 又ハ登記シタル支那人ニシテ所得稅ヲ納ムル帝國臣民ハ其ノ主トシテ 職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ノ所在地ニ於テ議員ノ選舉權ヲ有ス 三、法人及年滿三十歲以上ノ男子ニシテ二箇年以來議員ノ選舉權ニ關スル 要件ヲ具備スル者ハ議員ノ選舉權ヲ有ス
所得稅調查委員 所得稅法第三十一條	選舉區域内ニ住居スル年滿二十歲ノ所得稅ヲ納ムル其ノ年所得額ノ申告ヲ爲シ タル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ハ調査委員及補員ノ選舉權 又ハ之ニ選舉權セラルコトヲ得
營業稅調查委員 營業稅調查委員第二十六條 稅ノ法第六條	選舉區域内ニ於テ營業所ノ前年營業稅ヲ納ムル者ハ其ノ年營業稅課稅 標準ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員及補員ノ選舉權又ハ調査委員補員若 ハ調査委員選舉人ノ選舉權セラルコトヲ得
官吏 文官任用令第七條	教官、技師官其ノ他特別ノ學術技能ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等 試驗委員ノ任命ニ在リテハ高等試驗委員ノ資格ヲ具備スル者ニ限リ 學校長ハ前項ノ規定ニ依リ任用スルコトヲ得

附記：治安警察法第五條第二項ニ於テ女子及未成年者ハ公衆ノ會同スル政談集

三 女子選舉權ニ關スル外國立法例

會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得サリシカ大正十一年法律第五一號
ニ依リ未成年者ニアラサル限リ男子ト同様其ノ自由ヲ認メラルルコトナ
レリ

國名	女子選舉權	内容	女子選舉權ニ關スル沿革
英	有	(約八,000,000人) 一九一九年現在	一、九〇〇年代ニ入り女子參政權ノ問題漸ク論議セラレ、一九一〇年以降ニ及ンテハ愈益下爲リ有名ナルサツラジエツトノ運動等ト爲レリ。 歐洲大戰開始後其ノ運動ハ暫ク鎮靜ニ歸セシカ之レ却テ女子參政權問題ニ有利ナル影響ヲ與ヘ遂ニ一九一八年ノ選舉法改正ノ際ニ於テ多數論議ノ末女子選舉權ハ認めラレタリ
佛	無	無	女子選舉權ヲ認ムヘントスル議論ハ相當ニアルカ如シト雖未タ實現セス。反對論亦旺ナリ
獨逸	有	(約八,000,000人) 一九一九年現在	男子ニ對シテハ一八七一年獨逸帝國創立以來普通選舉權ヲ認メタルモ女子ニ付テハ全ク之ヲ認メザリ。獨逸革命後一九一九年憲法制定ノ國民議會ノ選舉ノ際ニ於テ前年憲法女子ニ選舉權ヲ認メ引續キ現行選舉法ニ於テモ認メタリ
普魯	有	(約三,000,000人) 一九一九年現在	男子ノ普通選舉權ヲ認メタルハ一八四九年ノコトナルモ女子ニ付テハ認メタルハ一九一九年普魯西憲法制定ノ國民議會ノ選舉ノ際ニ於テ之ヲ認ム
伊太利	有	(約二,000,000人) 一九一九年現在	從來女子選舉權ニ關スル議論ハ存シタリ。一九二〇年改正選舉法通過選舉權ヲ認メタリ

國名	女子選舉權	無	有	女子選舉權ノ内容	女子選舉權ニ關スル沿革
北米合衆國	有	(約三〇〇〇萬人) 一九二〇年現在)	男子ト同一ノ條件ナリ	一九二〇年修正憲法第十九條(大體普通選舉)	北米合衆國諸州ニ於テハ從來男子ト同様ニ女子選舉權ヲ認メタルモノモアリシカ(憲法修正前十一州) 一九二〇年合衆國憲法ヲ修正シ、性別ニヨリテ選舉權ヲ區別スル事ヲ得サルニ至レリ
白耳義	無				一少部分ノ女子ニノミ選舉權ヲ認ム、一般ノ女子選舉權ニ付テハ議論ハ相當ニアルカ如シト雖未タ實現セス(因ニ白耳國ニ於テハ地方議會ニハ女子ニモ選舉權ヲ認ム)
瑞西	無				議論ハ存スルモ未タ實現セス
奧太利	有		男子ト同一ノ條件ナリ	(一九二〇年新憲法第二七條普通選舉)	男子ニ普通選舉權ヲ認メタルハ一九〇七年ノ選舉法改正ノ後ナルモ女子ニ選舉權ヲ認メタルハ革命以後ノコトナリ
露西亞	有		男子ト同一ノ條件ナリ(一九一八年革命憲法第十三條普通選舉)	一九一七年十一月革命起リ以後女子ニモ選舉權ヲ認メタリ	
ナエツクソロバキヤ	有		男子ト同一ノ條件ナリ(一九二〇年新憲法第九條普通選舉)	一九二〇年新憲法ニテ女子選舉權ヲ認メタリ	
極東共和國	有		男子ト同一ノ條件ナリ(一九二二年新憲法第三十五條普通選舉)	右ニ同シ	
波蘭	有		男子ト同一ノ條件ナリ(一九二二年新憲法第十二條普通選舉)	右ニ同シ	
西班牙	無				
和蘭	有		男子ト同一ノ條件ナリ(普通選舉)	一九一九年選舉法ヲ改正シテ女子選舉權ヲ認メタリ	

瑞典	有		男子ト同一ノ條件ナリ(普通選舉)	一九一九年選舉法ヲ改正シテ女子選舉權ヲ認メタリ
諸威	有		男子ト同一ノ條件ナリ(普通選舉)	一九一三年選舉法ヲ改正シテ女子選舉權ヲ認メタリ
加奈陀	有		男子ト同一ノ條件ナリ(普通選舉)	一九二一年選舉法ヲ改正シテ女子選舉權ヲ認メタリ
濠洲聯邦	有		男子ト同一ノ條件ナリ(普通選舉)	一九〇〇年濠洲憲法第三十條及各州憲法參照
土耳其	無			
希臘	無			
愛蘭	有		一九二二年六月十五日發表ニカカル憲法草案ニ依レバ男子ト同一ノ條件ニアラサルカ如シ(女子制限選舉)	

四 英國ノ婦人選舉權ノ内容

一、女子ハ左ニ掲クル要件ヲ具フルトキハ一選舉區(大學選舉區ヲ除ク)ニ於テ國會議員選舉人トシテ登録セララルコトヲ得

A 滿三十歳ニ達シタルコト

B 法律上無能力ニアラサルコト

(年收五磅ヲ下ラサル土地若ハ建物(住家ヲ除ク)ヲ一選舉區内ニ於テ占有スルコトニ依リ又ハ住家ヲ占有スルコトニ依リ地方議會選舉人トシテ登録セララルコトヲ得ルコト又ハ其ノ登録ヲ受クルコトヲ得ル男子ノ妻タルコト

二 滿三十歳ニ達シ法律上無能力ニアラサル女子ニシテ若シ女子カ男子ナリトセハ大學選舉區ニ於テ登録セラルルコトヲ得ヘキモノ又ハ大學ノ最終試験ニ合格シ且ツ其ノ合格ノ當時女子ニ學位ヲ授クルコトヲ許ササル大學選舉區又ハ選舉區ノ一部ヲ成ス所ノニ於テ男子カ學位ヲ受クルニ必要ナル住所ノ期間ヲ其ノ大學カ女子ニ就テ必要トスル條件ニ從テ持續シタルモノハ其ノ大學選舉區ニ於テ國會議員選舉人トシテ登録セラルルコトヲ得

三 左ノ各號ノ一ニ該當スル要件ヲ具フル女子ハ一地方議會選舉區ニ於テ地方議會選舉人トシテ登録セラルルコトヲ得

A 其ノ女子カ若シ男子ナリトセハ登録セラルルコトヲ得ヘキコト

B 夫婦ノ住スル建物ニ依リテ登録セラルルコトヲ得ル男子ノ妻ニシテ滿三十歳ニ達シ且ツ法律上無能力ニアラサルコト

本號ノ適用ニ付テハ服務ナカリセハ有スヘカリシ住所ノ資格ニ依リ登録セラレタル海軍又ハ陸軍投票人ハ本號ノ資格ヲ具備スルモノト看做ス

(以上一九一八年國民代表法第四條)

(參 照) 男子ノ地方議會選舉權 (同法第三條)

成年ニ達シ法律上無能力ニアラサルモノニシテ左ノ要件ヲ具フルモノハ一地方議會選舉區ニ於テ地方議會選舉人トシテ登録セラルルコトヲ得

(A) 資格期間末日ニ於テ其ノ選舉區ニ於テ所有者又ハ賃借人トシテ土地又ハ建物ヲ占有スルコト

(B) 資格期間ノ間引續キ其ノ選舉區ニ於テ又ハ若シ其ノ選舉區ニシテアドミニスト

レーチヅ・カウンチー若ハカウンチー・ボローニアアラサルトキハ其ノ選舉區ノ全部又ハ一部ノ存在スルアドミニストレーチヅ・カウンチー若ハカウンチー・ボローニ於テ前號ト同一ノ状態ニ於テ土地又ハ建物ヲ占有シタルコト
但シ

(I) 本條ノ適用ニ付テハ職務雇備等ニ依リ或ル住家ニ住居スル者ハ若シ其ノ住家ニシテ職務上ノ主人雇主等カ之ニ住居セサル限リハ賃借人トシテ其ノ住家ヲ占有スルモノト看做ス

(II) 本條ノ適用ニ付テハ下宿人トシテ一室又ハ數室ヲ占有スル者家具ノ附カサル状態ニ於テ借リタルモノナル限ハ賃借ノ中ニ之ヲ包含ス

第三 住所ニ關スル件

住所ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由

(一) 立法ノ沿革

年	次
明治二十二年法律第三號	明治三十三年法律第七三號
大正八年法律第六〇號	

住所ニ關スル要件

一年以上其ノ府縣内ニ本籍ヲ定メ住居スルコト

一年以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スルコト

六ヶ月以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スルコト

(參 照)

(一) 貴族院多額納稅者議員互選規則

互選名簿調製ノ期日前一年以上其ノ府縣内ニ本籍ヲ定メ住居スルコト

(第一條)

(二) 地方制度

- (イ) 府縣制第六條(市制第九條)町村制第七條(島嶼町村制第二十七條)各々其ノ區域内ニ二年以上住所ヲ有スルコト
- (ロ) 北海道一級町村制第五條 其ノ町村内ニ三年以上住居ヲ有スルコト
- (ハ) 北海道二級町村制第二〇條(其ノ町村内ニ一年以上住居ヲ有スルコト)

(二) 法案ノ沿革

年次	憲政會案	國民黨案
大正八年	全一選舉區内ニ有スル以上住所ニ	全一選舉區内ニ有スル以上住所ニ
大正九年二月	全	全
大正九年七月	全	全
大正十年	全	全
大正十一年	全	全

(三) 理由

隣保相扶ノ状態ノ發達シタル地方制度ノ公民權ニ付テハ成ルヘク土着ノ意味ヲ必要トシ住所ノ制限ハ必要ナルモ衆議院議員選舉法ニ於テハ其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ名簿調製上必要ナル期間ニ止ムルヲ適當ト信ス

住所ノ期間ヲ著シク短縮センカ人事益々複雑ヲ來シ移動亦頻繁ナルニ際シ名簿調製上紛雜ヲ來シ之カ精確ヲ期シ難カルヘシ故ニ此ノ紛雜ヲ避クル爲ニハ六ヶ月ノ期間ヲ必要ト認メタリ

備考

寄留法ニ於テハ九十日以上本籍地外ニ於テ住所又ハ居所ヲ有スル者ヲ寄留者ト

二 住居ノ要件ニ關スル外國立法例

シ寄留届出ハ住所又ハ居所ヲ定メタル日ヨリ十四日以内ニ爲スモノナレハ住所又ハ居所ヲ定ムルノ意思ナカリシ者カ寄留法ノ支配ヲ受ケテ寄留簿ニ登載セララルルニ至ルハ少クトモ百四日ヲ經過シタル後ナリ

以上ノ如ク主トシテ住所ノ期間ハ名簿調製上ノ必要ニ出テタルモノナレハ其ノ調製後ハ必要ナラサルノミナラス改正案ハ小選舉區ト爲セル結果住所移動ノ爲失格スル者ノ數ヲ増加スルヲ以テ選舉權擴張ノ趣旨ヨリスルモ名簿調製後尙引續キ住所ヲ有スルコトヲ要件トスルハ適當ナラス(大正八年改正案理由書)

國名	住居要件ニ準スヘキ要件	備考
英	(イ) 資格期間ノ末日ニ於テ其ノ選舉區ニ住居ヲ有シ且(ロ) 資格期間ノ間引續キ其ノ選舉區ニ於テ又ハ同一ノ市區若ハ郡區内ニ隣接シ若ハ一定ノ距離内ニ在ル市區若ハ郡區内ニ他ノ選舉區ニ於テ住居ヲ有スルコト(資格下擇一的)	一九一八年國民代表法第一條
吉	(イ) 資格期間ノ末日ニ於テ其ノ選舉區ニ住居ヲ有シ且(ロ) 資格期間ノ間引續キ其ノ選舉區ニ於テ又ハ同一ノ市區若ハ郡區内ニ隣接シ若ハ一定ノ距離内ニ在ル市區若ハ郡區内ニ他ノ選舉區ニ於テ住居ヲ有スルコト(資格下擇一的)	第一條
利	(イ) 資格期間ノ末日ニ於テ其ノ選舉區ニ住居ヲ有シ且(ロ) 資格期間ノ間引續キ其ノ選舉區ニ於テ又ハ同一ノ市區若ハ郡區内ニ隣接シ若ハ一定ノ距離内ニ在ル市區若ハ郡區内ニ他ノ選舉區ニ於テ住居ヲ有スルコト(資格下擇一的)	及第四條

國名	住居要件	住居要件ニ準スヘキ要件	備考
佛蘭西	(一)名簿調製ノ際ニ六箇月以上同一市町村内ニ住居セルコト (二)名簿調製ノ際ニ住居ノ要件ヲ具備セザルモ名簿確定閉鎖前ニ該要件ヲ獲得スヘキコト		一八五二年根本布令第十四條
獨逸	一投票區内ニ住居セルコト		一九二〇年新選舉法第三條及第十一條
普魯西	一投票區内ニ住居セルコト		一九二〇年新選舉法第三條及第十一條
北米合衆國	各州ノ憲法ニ規定セラレ、從テ各州ノ内容ヲ異ニス、但シ各州ヲ通シテ州郡市町村及選舉區ニ付各若干期間ノ住居ニ必要トスル點ハナリ、而シテ州内ニ二年以上ノ住居ヲテ州内ニ一年以上ノ住居ヲテ必要トセルヲ最長トシ、例之アラバ、ルイジアナ等選舉區内ニ二日以上ノ住居ヲ必要トセルヲ最短トスヘキカ如シ(マリーランド)		米國憲法第一條第二節第一項及各州憲法中選舉權ニ關スル規定
伊太利	六箇月以上同一選舉區内ニ住居セルコト		
白耳義	六箇月以上同一市町村内ニ住所ヲ有スルコト		一九二一年改正憲法第四十七條
瑞西聯邦	聯邦内ノ一州ニ住所ヲ有スルコト		一八七四年憲法、第三十四條及第七十三條
奧太利	一投票區内ニ住所ヲ有スルコト		一九一八年奧太利憲法制定國民議會選舉法第三條及第十四條參照

露西亞	ソビエツト共和國内ニ住居セルコト		一九一八年新憲法第十三條
波蘭土	選舉ノ公布アリタル日ニ住所ヲ有スルコト		一九二一年新憲法第十二條
西班牙	二箇年以上同一市町村内ニ住居セルコト		一九〇七年選舉法
諸威	引續キ五年以上國内ニ住居セルコト		一九二三年選舉法
加奈陀	選舉ノ公布前聯邦内ニ一年以上住居セルコト		一九二一年改正選舉法第二十九條
濠洲聯邦	聯邦内ニ六ヶ月以上、選舉區内ニ三ヶ月以上住居セルコト (一例、新西、ウエールズ州)		一九〇〇年憲法第三十條及各州選舉法中選舉權ニ關スル規定
愛蘭	英國現行制度ニ同シ	上	一九二二年六月十五日發表憲法草案第十四條

(註) 英吉利ノ住居要件ニ準スヘキ要件ハ一面ニ於テハ財產若ハ納稅要件ニ準スヘキ要件トモ見ラレサルニアラス、從テ之ヲ雙方ニ掲出スルコトトセリ

第四 納稅資格ニ關スル件

一 納稅資格ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革
(一) 立法ノ沿革

(參照) 地方制度ニ於ケル納稅資格ノ内容

年次	納稅資格ノ内容	有總權者ノ數	備考
明治二十二年法律第三號	滿一年以上直接國稅十五圓以上ヲ納ムルコト但シ所得稅ニ付テハ滿三年以上ナルコトヲ要ス	(四六七三三一人) (明治三二、七二〇現在)	直接國稅ノ種類 地租所得稅 (明治二十二年勅令第四一號) 營業稅 (明治二十九年勅令第二六三號)
明治三十三年法律第七三號	(イ) 滿一年以上土地租十圓以上ヲ納ムルコト (ロ) 滿三年以上土地租以外ノ直接國稅十圓以上ヲ納ムルコト (ハ) 滿三年以上土地租ト地租以外ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納ムルコト	(一、四六二、二二六人) (大正七、一〇、一現在)	(一) 直接國稅ノ種類 地租所得稅營業稅 (明治三十四年勅令第一八六號) 營業稅 (明治四十四年勅令第一三五號) (二) 政府原案ハ「地租五圓以上其ノ他ノ直接國稅三圓以上、地租ト共ニシテ其ノ推定有權者數ハ二、八〇五、七五七人ナリキ
大正八年法律第六〇號	滿一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト	(三、〇三八〇九一人) (大正九、五、一〇現在)	直接國稅ノ種類 地租、所得稅、營業稅、賣藥營業稅ニ付テハ同上 礦業稅、砂礫區稅 (大正九年勅令第三七號)

府縣制	市制	町村制	關係條文	要旨
第六條	第十四條	第十二條		
二年以來直接市稅若クハ直接町村稅ヲ納メ且一年以來直接國稅ヲ納ムルコト	二年以來直接市稅ヲ納ムルコト	二年以來直接町村稅ヲ納ムルコト		

(二) 法案ノ沿革

北海道會法	北海道一級町村制	北海道二級町村制	村島嶼制
第四條第一項	第三十八條	第二十條	第二十七條
三年以來直接國稅三圓以上ヲ納メ又ハ土地四町歩以上ヲ有スルコト	三年以來町村ノ負擔ヲ分任シ且地租四十錢以上又ハ直接國稅、北海道水產稅若クハ直接國稅ノ北海道上水產稅トヲ合シテ二圓以上ヲ納ムルカ或ハ三町歩以上ノ土地ヲ有スルコト	大體右ニ同シ、但シ四十錢八十錢、二圓八十錢、三町歩一町歩(耕地)又ハ百坪(宅地)トス	二年以來町村ノ負擔ヲ分任シ且ツ直接國稅ヲ納ムルコト

年次	日向輝武(外名)提出	憲政會案	國民黨案
明治四十四年第二十七議會	納稅資格撤廢(衆議院通過)		
大正八年第四十一議會		滿一年以上直接國稅二圓以上ヲ納ムルコト	滿一年以上直接國稅二圓以上ヲ納ムルコト
大正九年二月第四十二議會		納稅資格撤廢	納稅資格撤廢
大正九年七月第四十三議會		同上	同上
大正十年第四十四議會		同上	同上
大正十一年第四十五議會		納稅資格撤廢	同上

二 普通選舉論ノ要旨

第一 國體論ニ基クモノ

一億兆ト國事ヲ談スルハ我國國體ノ精華ナリ之レ實ニ古來我國明帝ノ採リ給ヒシトコロニシテ且我國憲法制定ノ根本義亦此ニ存ス

二廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘキハ明治維新ノ浩謨ニシテ明治聖帝ノ夙ニ訓諭シ給ヒシ大義ナリ普通選舉ノ斷行ハ最モヨク此ノ聖旨ニ適合スルモノナリ

第二 法理的根據ニヨルモノ

一國家ハ國民ノ國家ナリ(天下ハ萬人ノ天下ニシテ一人ノ天下ニアラス)國民ノ全體ハ之ヲ維持スヘキ義務アルト共ニ亦之ヲ維持スル權利ヲ有ス即國民カ國家ノ一員トシテ國事ニ參與スルハ其ノ當然ノ責任ニシテ且必然ノ權利ナリ(社會連帶論ヨリ出ツルモノ)

二廣ク國民ノ輿論ニ聽キ總テ國民ノ利益ヲ主張セシムヘキハ立憲政治ノ要諦ナリ之カ爲ニハ國民ノ多數ニ發言ノ權ヲ與ヘサルヘカラス故ニ立憲政治必然ノ歸趨ハ普通選舉ニ達ス

三下級民衆ノ利益ヲ尊重シ其ノ權利ノ伸張ヲ圖ラム爲ニハ必スヤ普通選舉ヲ斷行シテ之ニ發言ノ機會ヲ與ヘサルヘカラス

四國會ハ國家ノ縮圖タルヘシ故ニ其ノ組織及構成ハ必スヤ一切ノ國民ヲ代表シ得ヘキモノナラサルヘカラス國會ヲシテ一切ノ國民ヲ代表セシムカ爲ニハ普通選舉ヲ實施スルノ外ナシ

五人ハ各々其ノ生存ヲ維持スヘキ本來ノ權利所謂生存權ヲ有ス而シテ參政權ノ如キハ生存權ノ重要ナル一發露ナリ故ニ各人ハ必スヤ參政權ヲ享有シ生存ヲ維持シ得サルヘカラス

シ得サルヘカラス

六衆議院ヲシテ民選議員タルノ意義ヲ明ニシ兩院制度ノ實績ヲ擧ケシメンカ爲ニハ普通選舉ヲ實施スルヲ急務トス

七選舉資格ニ制限ヲ附シ又ハ差別ヲ設クルコト假令理論上正當ナリトスルモ其ノ制限又ハ差別ヲ設クヘキ適當ノ標準ナシ財產的標準ノ如キ國民ノ參政能力ノ有無ノ判定標準トシテ不當ナルハ言ヲ俟タス

八人ハ生レナカラニシテ天賦ノ權利ヲ有ス參政權ノ如キ其ノ一ナリ國民ハ總テ參政權ヲ享有セサルヘカラス而シテ國民參政權行使ノ最良ノ具體的方法ハ普通選舉制度ノ實施ニ在リ(天賦人權論ヨリ出ツルモノ)

九國家ハ人民ノ構成セルモノニシテ國家ノ主權ハ人民ニ發ス從テ主權者タル總テノ人民ハ當然ニ國政ニ參與スルノ權利ヲ有セサルヘカラス(人民主權說又ハ社會契約說ヨリ出ツルモノ)

第三 政治的根據ニ基クモノ

一普通選舉ノ實施ハ世界の大勢ナリ此ノ大勢ニ逆行スルハ得策ニアラス

二普通選舉ノ實施ハ國民多數ノ熱烈ナル要求ナリ國民多數ノ赴クトコロヲ察知シテ之カ適策ヲ講スルハ爲政家ノ當然ノ任務ナリ

三自治的精神ハ國家存立ノ基礎ナリ而シテ普通選舉實施ノ要求ハ國民ノ自治的精神ノ發露ナリ加之普通選舉ノ實施ハ逆ニ國民ノ自治的精神ノ涵養ニ對シテモ大益アルモノナリ

四普通選舉ハ必スシモ國民ニ高度ノ教養ヲ要求セス我國ノ國民ハ既ニ此ノ點ニ關シ充分ノ參政能力ヲ有ス能力ヲ具備セサルモノニ對シテ權利ヲ拒ムハ不當ナリ

五、民本主義デモクラシー

ハ近世ノ大思潮ニシテ普通選舉制度ハ民本思潮ノ一表現ナリ之ニ背離スルカ如キハ現代政治ノ歸趨ヲ察知セサルモノニシテ到底許スヘキニアラス

六、近代ノ政治ハ勞働者ノ自覺ト其ノ勃興セル勢力ヲ無視スルコトヲ得ス且ツ勞働者階級ト資本家階級トノ衝突ハ近時益々甚シ之カ對策トシテハ普通選舉ヲ實行スル外ニ適策ナシ

七、階級的偏見ヲ打破シ近時ノ改造思潮ヲ利シテ社會ノ改善ヲ圖ラントセハ普通選舉ノ斷行ヲ有利トス

八、停滯セル政界ヲ覺醒シ其ノ偏見ト固陋トヲ打破セムカ爲ニハ普通選舉實施ノ外ニハ別ニ方法ナシ

九、腐敗セル選舉界ヲ廓清シ在來ノ弊害ヲ除去シテ公明ノ選舉ヲ行ハシメムカ爲ニハ普通選舉ノ斷行ヲ要ス

十、近時國內ニ流行スル過激ナル言動ヲ抑止シ急激ナル社會的變革ヲ豫防シ社會ノ正常穩健ナル發達ヲ期センカ爲ニハ普通選舉ヲ斷行シテ人心ノ安定ヲ圖ルヘシ

十一、政黨内閣ノ基礎ヲ確立シ之ヲシテ其ノ實績ヲ舉ケシメンカ爲ニハ普通選舉ヲ實施シテ國民の後援ヲ強大ナラシムルコトヲ要ス

十二、普通選舉ヲ斷行シテ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ國民全體ヲシテ國家ニ對シ重大ナル責務ヲ負ハシムルハ熱烈ナル愛國心ヲ養成シ國家觀念ヲ鞏固ニスル所以ナリ

十三、現在政黨ノ弊害ヲ除去シ政黨ヲ改造シテ其ノ健全ナル發達ヲ圖ラシメムカ爲ニハ普通選舉ノ斷行ヲ必要トス

十四、不真面目ナル衆議院ノ氣風ヲ一新シ沈衰セル狀態ヲ覺醒シテ其ノ眞摯ナル活躍ヲ促スニハ普通選舉ヲ斷行シテ之ヲ國民全體ノ監視ニ附スルヲ最良策トス

十五、一朝有事ノ際ニ於テ全國民ノ大動員ヲ爲サンカ爲ニ豫メ準備スルトコロナカルヘカラス此カ精神的準備トシテ普通選舉ノ實施ヲ必要トス

第四雜

一、國民ハ總テ兵役義務ヲ負擔ス義務ノミヲ負擔セシメテ權利ヲ拒否スルノ理由ナシ國民ハ當然ニ參政ノ權利ヲ有ス

二、普通選舉ヲ斷行スルハ世界ニ對スル軍國主義的誤解ヲ一掃スル爲メニ必要ナリ

三、普通選舉ノ斷行ハ國民ニ最モ有效ナル教育的效果ヲ及ホシ其ノ政治的並ニ社會的智識ヲ増進ス

四、責任觀念ノ缺乏ハ現時ノ大弊ナリ國民責任觀念ヲ養成スル爲メニハ一般ニ參政權ヲ附與シテ之ニ責任ヲ負シムルハ必要ナリ

五、參政權ハ國民ノ榮譽權ナリ特別ノ理由ナクシテ此ノ榮譽權ヲ制限スルハ不當ナリ

六、現時國民ノ通弊タル内的生命ノ萎縮ヲ恢復シ國民性ノ健全ナル發展ヲ庶幾センカ爲メニハ普通選舉ノ斷行ヨリ良策ナシ

七、國際聯盟ノ精神ヲ實行スル爲メ普通選舉ノ實施ヲ必要トス

三 普通選舉反對論ノ要旨

第一 絶對的反對論

一、立憲政體ハ必ス普通選舉ニ根據ヲ置カサルヘカラスト云フノ理由ナシ 選舉ハ國政ニ參與スルニ適當ナル者ヲ舉クルノ一手段タルニ過キス其ノ形式ハ一ニ時

- ノ便宜ニ從フヘキノミ議會制度ニ民意代表ノ意味ヲ加フヘキモノニアラス
- 二、普通選舉ハ選舉人ノ識見ヲ低下ス普通選舉ニ依リテ選舉界ヲ廓清セムトスルカ如キハ不可能ナリ
- 三、普通選舉ニ在リテハ衆愚カ多數ヲ推シテ少數ナル有識上流社會ヲ脅威スルノ虞アリ
- 四、天賦人權說又ハ人民主權說ヲ根據トセル普通選舉論カ我國ニ於テ到底採用スルコトヲ得サルハ明ナリ
- 五、普通選舉ハ立憲君主政體ト相容レス
- 六、納稅資格ヲ以テ選舉權ノ要件トスルハ必スシモ不當ニアラス(恒産恒心論)
- 七、現行法ハ選舉權ニ付機會均等ナリ決シテ不公平アルコトナシ且如何ナル選舉制度ヲ設クルモ選舉資格ニ付テ何等カノ制限ヲ設クルコトハ蓋シ止ムコトヲ得サルナリ

第二 相對的反對論

- 一、政治ハ理論ニアラス能ク其ノ國ノ實情ニ適合スルヲ主眼トス而カモ我國ニ於テハ選舉制度ノ實施以來日仍淺シ國民ノ政治的智識未タ低級ナル今日直ニ普通選舉制ヲ實施スルハ其ノ實情ニ適應セサルモノナリ
- 二、選舉權ノ擴張ハ急激ニ行フヘキモノニアラス順ニ遵ヒ漸ヲ追フテ進ムヲ可トス而カモ我國ニ於テハ最近ニ選舉權擴張シテ以後日仍淺シ今日直ニ普通選舉ヲ實施スルハホタ其ノ時機ニアラス試練ト經驗ヲ經タル後之ヲ行フモ敢テ後シトセズ

- 三、我國ノ國情ハ普通選舉ヲ斷行スルニアラサレハ救済スルコト能ハサル様ニ急迫セルモノニアラス今日ニ於テ普通選舉ヲ斷行スルハ却テ國情ヲ騷然タラシムルノ虞ナキヤ
- 四、國民ハ未タ普通選舉ヲ要求セス之レ大正八年衆議院解散ノ結果ニ見ルモ明ナリ
- 五、先ツ地方制度ニ於テ普通選舉制ヲ施キ然ル後國會ニ及フヲ順序トス
- 六、普通選舉ハ思想ノ惡化ヲ防止スト云フモ却ツテ今日行ハルル普通選舉論ノ背後ニ危險思想ヲ包藏セスト斷スルコトヲ得ス
- 七、普通選舉ハ世界的大勢ナリト云フモ直ニ之ニ模倣スルハ識者ノ態度ニアラス外國ニモ普通選舉反對ノ議論ヲ存ス

第三 雜

- 一、兵役ノ義務ト選舉權トヲ比較シテ考量スルハ非ナリ
- 選舉權ハ義務ニ對スル報酬タルヘキモノニ非ス
- 二、普通選舉ニ國民ヲ教化スルノ效果ナシ假令效果アリトスルモ國民ノ教化ヲ目的トシテ選舉制度ヲ設クヘキモノニアラス

四 納稅資格ニ關スル外國ノ立法例

英	吉	利	納稅資格	無資格	納稅資格	備	考
一九一八						(一) 普通選舉制ヲ實施セルハ一八八四年ノ選舉法改正ヲ以テス (二) 營業所ノ資格(之ニ付テハ)住居要件ニ關スル外國立法例(參照) ハ一面其ノ實質ニ於テ財產的要素ヲ有スト解セラレサルニテ ス(但シ營業所資格ハ住居資格ト擇一的ノ要件ニシテ、且現行法 ニ於テモ二票マテノ複數投票制ヲラレ居ルヲ以テ決シテ普通 選舉タルノ實ヲ害スルモノニアラス)	(三) 女子ハ制限選舉ナリ

佛蘭西	獨逸	普魯西	北米合衆國	伊太利	白耳義	瑞西	奧太利	露西亞	チエツクシロバキヤ	極東共和國	波蘭	西班牙
納稅資格 無格	納稅資格 撤廢ノ年次	納稅資格 無格	多數ノ州ニ於テハ納稅資格ナシ但シ人頭稅納付又ハ財產所有トセル州ニテハ州ノ選擧資格トセルルニヤ	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格
一、八五二	一、八七一	一、八四九		一、九一三	一、八九三	一、八七二	一、九〇七	一、九一八	一、九二〇	一、九二一	一、九二一	一、九〇七
考			(一)各州ニヨリ選舉資格ノ内容ナ異ニスヘキコトハ米憲第一條ノ規定スルトコロナリ (二)人頭稅納付又ハ財產所有ノ要件ヲ選舉資格中ニ加ヘタル州ニ於テモ其ノ立法ノ真意ハ之ヲ以テ黑人ノ參政權ヲ阻止セントスルニアリテ決シテ選舉資格ヲ財產的ニカカラシムヘシトスル理論ヨリ出ツルモノニアラストスル說多シ		一八九三年普通選舉ヲ施行セルモ同時ニ三票マテノ複數投票制ヲ制定セリ(複數投票制ノ内容ハ「教育資格ニ關スル外國立法例參照」一九二二年複數投票制ヲ止メテ純然タル普通選舉制トナレリ)							

和蘭	瑞典	諸威	加奈陀	淡洲聯邦	土耳其	希臘	愛蘭
納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	納稅資格 無格	直接國稅ト 納ムルコト	納稅資格 無格	納稅資格 無格
一、九一七	一、九〇九	一、九一三	一、九二一	一、九〇〇			一九二三年 六月十五日 憲法草案

第五 教育資格ニ關スル件

(一) 一 教育資格ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由
 立法ノ沿革
 未タ教育上ノ要件ヲ選舉權資格中ニ加ヘタルコトナシ

(二) 法案ノ沿革

年次	大正三十二年	大正三十一年	大正三十五年	大正三十七年	大正三十八年
國民黨案	中學校以上ノ學校卒業免狀ヲ有スル者 (古島一雄外三名) 提出	府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ同等以上ノ學科程度ヲ修メタル者 (關直彦外七名提出)	府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ同等以上ノ學科程度ヲ修メタル者 (關直彦外四名提出)	府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ同等以上ノ學科程度ヲ修メタル者 (高木益太郎外一名) 提出	師範學校、中學校若ハ文部大臣ニ於テ同等以上ノ學科程度ヲ修メタル者 (高木益太郎外三名) 提出
憲政會案		帝國大學、私立大學、文部省直轄ノ各種專門學校、中學校、師範學校、其他文部大臣ノ附屬シテ修業ノ特典ヲ享受セザル者 (森田小太郎提出)			中學校、師範學校若ハ文部大臣ニ於テ同等以上ノ學科程度ヲ修メタル者 (武富時敏外六名) 提出

(三) 理由

- (イ) 智識階級ニ選舉權ヲ與フルハ財產資格者ノミニ依ル選舉權行使ニ伴フ危險ヲ防止シ其ノ弊害ヲ矯正スル上ニ於テ必要ナリ (大正五年選舉法調査會)
- (ロ) 智識階級ニ選舉權ヲ與フルハ腐敗セル選舉界ヲ革正シ代議政体ノ進展ヲ期スルニ必要ナリ (第三十七議會)
- (ハ) 被選舉人ノ氏名ヲ自書シ得ルノ一事ヲ以テ選舉人ノ智識ヲ測定スルハ姑息ナリ中等教育ヲ了ヘタル者ノ如キ明ニ智識アル者ニ對シテ選舉權ヲ與フルハ國民ノ智識ニ對シ尊敬ヲ與フル所以ナリ (大正五年選舉法調査會)
- (ニ) 恒産恒心論ニ依リ納稅者ヲ以テ政治能力ヲ有スルモノトシ之ニ選舉權ヲ與フル以上ハ納稅ノ事實ナシト雖他ノ事實ニ依リ政治能力アリト認定セララルヘキ階級者ニ對シテモ選舉權ヲ與フルハ當然ナリ (第四十一議會)
- (ホ) 苟モ中學教育ヲ受ケタル者若ハ之ト同等以上ノ學識ヲ有スル者ハ政治的ノ教養アルモノト認メラル、ヲ以テ是等ノ者ニ選舉權ヲ與フルハ漸次國民ヲ政治的ニ教養訓育スル所以ナリ (第四十一議會)

(參照)

(一) 投票ノ自書ニ關スル件
衆議院議員選舉法 (第三十八條 第一項 第六號) 府縣制 (第十七條 第一項 第六號) 市制 (第二十五條 第一項 第七號) 町村制 (第二十五條 第一項 第七號) 北海道會議員選舉令 (第一項 第六號) 等ニ於テハ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサルモノハ投票ヲ爲スコトヲ得ス又被選舉人ノ氏名ヲ自書セザルモノ、投票ハ之ヲ無効トス

(二) 中等程度ノ學校卒業業者及在學者數調

種別	卒業業者數			在學者數		
	總數	死亡者數	現存者數	總數	死亡者數	現存者數
中學校	三〇三、六七六	一九、三八七	二八三、二八九	一五七、一八九		
中學校ニ類スル各種學校	三三、四五四	二、〇五三	三一、四〇一	?		

(三) 備考 本表ハ大正七年三月末現在數ニシテ文部省ノ調査ニ係ルモノトス
至大正十年度 中等程度ノ學校卒業者數調 (文部省調査)

種別	卒業者數			在學者數
	總數	死亡者數	現存者數	
師範學校	一〇六、五一九	一四、二八一	九二、二三八	一六、七五三
甲種實業學校	一三三、〇六九	八、〇一五	一二五、〇五四	五六、五二七
計	五七五、七一八	四三、七三六	五三一、九八二	

種別	大正七年度				大正八年度				大正九年度				大正十年度			
	總計	師範學校	中學校	中等學校ニ類スル各種學校	總計	師範學校	中學校	中等學校ニ類スル各種學校	總計	師範學校	中學校	中等學校ニ類スル各種學校	總計	師範學校	中學校	中等學校ニ類スル各種學校
計	四八、二九一	四、七二一	二二、九二三	一、一三八	四九、八〇四	四、六九六	二二、〇八〇	一、二二七	五一、一八六	四、六八四	二二、九五七	一、〇九一	五三、四六八	五、一五四	二四、二一四	一、〇九一
甲種	三九、七二六		一〇、九四四		四一、〇六九		一〇、七三五		四二、六二九		一〇、五五七		四四、一六八		一〇、三〇〇	
乙種	八、五七五		一二、九八八		七、七三五		一一、三四五		八、五五七		一一、四〇〇		八、三〇〇		一四、九一四	
總計	四八、二九一	四、七二一	二二、九二三	一、一三八	四九、八〇四	四、六九六	二二、〇八〇	一、二二七	五一、一八六	四、六八四	二二、九五七	一、〇九一	五三、四六八	五、一五四	二四、二一四	一、〇九一
四年間計																
總計	四八、二九一	四、七二一	二二、九二三	一、一三八	四九、八〇四	四、六九六	二二、〇八〇	一、二二七	五一、一八六	四、六八四	二二、九五七	一、〇九一	五三、四六八	五、一五四	二四、二一四	一、〇九一

備考
一、師範學校實業學校卒業者ハ男子ノミ計上セリ
二、實業學校ノ甲ノ部ニハ入學資格尋常小學校卒業修業年限五年入學資格高等小學校卒業修業年限三年程度以上ノモノ乙ノ部ニハ右ノ規程ニ達セサルモノヲ計上ス

ノヲ計上ス

三、大正十年度實業學校卒業者乙ノ分ハ推定ニ依リ計上ス

二 教育資格ニ關スル外國立法例

選定資格タル教育要件ニ關シテハ外國立法例中參考トスヘキモノ少シ。北米合衆國中ノ十數洲ニ於テ簡單ナル智的要件ヲ選定資格中ニ加ヘタルモノアリ。又英吉利、大寧口高等教育アル者ニ對シ二重ノ發言ヲ認ムル復數投票制ノ一様式ナリト謂フニ近カラムカ。之ニ類似ノ制度トシテ既ニ廢止セラレタルモ最近マテ白耳義及索遜ニ高等教育アルコトヲ一資格ニ加ヘタル復數投票ノ制度アリキ

(A) 北米合衆國ニ於ケル教育要件一覽

洲名	教育要件ノ内容	備考
アリバマ	讀書ノ能力アルコト	
カリフォルニア	憲法ヲ讀ミ且署名シ得ルコト	
コネクチカット	憲法ヲ讀ミ得ルコト	
フロリダ	憲法ヲ讀ミ且署名シ得ルコト	
ジョルジヤ	讀書シ得ルコト	
レイジアナ	讀書シ得ルコト	
メソ	憲法ヲ讀ミ且署名シ得ルコト	

洲名	教育要件ノ内容	備考
マリーランド	讀書シ得ルコト	
マサチューセツト	憲法ヲ讀ミ且署名シ得ルコト	
ミシシッピ	憲法ヲ讀ミ若ハ説明シ得ルコト	
ニューハンプシヤ	憲法ヲ讀ミ且署名シ得ルコト	
北カロリナ	讀書シ得ルコト	
南カロリナ	讀書シ得ルコト	
リシントン	英語ヲ讀ミ書シ得ルコト	
ウライオミング	身體不具ナラサル限リ憲法ヲ讀ミ得ルモノ	

因ニ北米合衆國ニ於テ教育要件ヲ選舉資格ニ加ヘタルハ之ヲ以テ黑人ヲ除斥セントスルノ目的ニ出ツルモノナルコト其納稅要件ニ於ケルト同一ナリト爲スハ學說一定セルガ如シ

(B) 英國ニ於ケル大學選舉區制度

(甲) 大學選舉權ノ内容

一、男子(第二條)ノ選舉權

成年ニ達シ法律上無能力ニアラサルモノニシテ一選舉區又ハ一選舉區ノ一部ヲ成ス大學ニ於テ學位(名譽學位ヲ除ク)ヲ受ケタルモノハ其ノ大學選舉區

ニ於テ國會議員選舉人トシテ登録セラル、コトヲ得蘇格蘭諸大學ニ付テハ一八六八年人民代表蘇格蘭法第二十七條ノ資格ヲ有スルモノダブリン大學ニ付テハ同大學ニ於テ學位(名譽學位ヲ除ク)ヲ受ケタル者又ハ本法通過ノ前後ヲ問ハス同大學ニ於テスカラシツヅ若ハフエローシツヅノ資格ヲ得タル者ハ國會議員選舉人トシテ登録セラル、コトヲ得

二、女子(第四條第二項)ノ選舉權

滿三十歳ニ達シ法律上無能力ニアラサル女子ニシテ若シ女子カ男子ナリトセバ大學選舉區ニ於テ登録セラル、コトヲ得ヘキモノ又ハ大學ノ最終試験ニ合格シ且ツ其ノ合格ノ當時女子ニ學位ヲ授クルコトヲ許ササル大學(選舉區又ハ選舉區ノ一部ヲ成ス所)ニ於テ男子カ學位ヲ受クルニ必要ナル住所ノ期間ヲ其ノ大學カ女子ニ就テ必要トスル條件ニ從テ持續シタルモノハ其ノ大學選舉區ニ於テ國會議員選舉人トシテ登録セラル、コトヲ得

(乙) 大學選舉區ノ構成

「ダブリン(二)クイースン、ユニバシチイ、オブ、ベルファスト(二)ナシヨナル、ユニバシチイ、オブ、アイラランド(二)」

(C) 白耳義及索遜ニ於ケル復數投票制度

(甲) 白耳義ニ於ケル復數投票法(一八九三年)

一、一票ヲ有スルモノ(一九一三年ニ於テ有權者總數五七%)

滿二十五年以上ノ男子ニシテ一年以上同一市町村内ニ住所ヲ有スルモノ
 二、二票ヲ有スルモノ（一九一三年ニ於テ有權者總數ノ二四％）
 （イ）滿三十五年以上ノ妻帯者又ハ鰥夫嫡出子ヲ有スルモノニ限ルニシテ其ノ住居ニ關シ年額五法以上ノ直接税ヲ納ムルモノ
 （ロ）滿二十五年以上ノ男子ニシテ價額二千法以上ノ土地即チ年額四十八法以上ノ公定收入ヲ與フル土地ノ所有者又ハ二個年以上引續キ年額百法以上ノ收入ヲ自耳義國公債ヨリ又ハ年金トシテ國庫ヨリ受クル者
 三、三票ヲ有スル者（一九一三年ニ於テ有權者總數ノ一九％）
 滿二十五年以上ノ男子ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノ
 （イ）大學ノ卒業證書又ハ公私高等學校ノ全科修了證書ヲ有スルコト
 （ロ）法律ヲ以テ定ムル公職又ハ一定ノ高等ノ學識ヲ必要トスル地位、職業ニ現ニ從事シ又ハ從事セルコト（例之、國務大臣、兩院議員、總督、裁判官、大學教授、中等學校教員、醫師、僧侶等）
 授、中等學校教員、醫師、僧侶等）
 索遜ニ於ケル復數投票法（一九〇九年改正選舉法）
 一、普通選舉資格
 滿二十五年以上ノ男子ニシテ直接國税ヲ納メ二年以來索遜ノ國籍ヲ有シ六箇月以來其ノ選舉區内ニ住所ヲ有スルコト
 二、復數投票資格
 （イ）一定額以上ノ收入アルモノ（各收入高ハ財源ニ依リテ異ル）
 （ロ）一定ノ土地ヲ所有スルモノ

(乙)

一 獨立ノ生計ニ關スル我國選舉法上、立法並法案ノ沿革及其ノ論據
 (一) 立法ノ沿革
 未タ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ衆議院議員ノ選舉資格ニ加ヘタルコトナシ
 (參照)
 地方制度
 市制(第九條) 町村制(第十二條) ニ於テハ獨立ノ生計ヲ營ムコトヲ市町村公民ノ一要件トス

第六 獨立ノ生計ニ關スル件

(二) 法案ノ沿革

年次	憲政會案
大正八年	第四十一議會 獨立ノ生計ヲ營ムモノ 但シ滿一年以上直接國税二個以上ヲ納ムルカ又ハ中等教育ヲ受ケ者ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者 (武富時敏外六名) 提出
大正九年	第四十二議會 獨立ノ生計ヲ營ム者 (武富時敏外六名) 提出
大正九年	第四十三議會 獨立ノ生計ヲ營ム者 (武富時敏外七名) 提出
大正十年	第四十四議會 獨立ノ生計ヲ營ム者 (其浦勝人外三名) 提出
大正十一年	第四十五議會

(三) 論 據

或ハ浪人生活ヲ爲シ又ハ他所ノ家ニ食客ヲシテ居リマシテマタ獨立ノ生計ヲ營ン
デ居ラス様ナ者ニ直ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトハ穩當ヲ缺クト云フ點カラ獨立
ノ生計ト云フ文字ヲ加ヘタノデアリマス此ノ條件ハ地方自治體ノ公民權ヲ得ル一
ツノ條件トナツテ居リマス(第四十回衆議院
憲法修正案附屬議案)
獨立ノ生計ナル文字ハ意味不明確ナル上獨立ノ生計ナル觀念ニハ仍財產的制限選
舉ノ痕跡ヲ存スト見ルベキデ純粹ナル普通ノ趣意ニ反スルモノデアリマス(今井
嘉幸)

參 照

獨立生計者ノ數

獨立生計ヲ營ム 九、四四八、六六八 大正九、八、一現在

二十五年以上ノ男子數

二十五年以上ノ男子數 一、二六九七、〇一六 全 上

二十年以上ノ男子數 一、六一二、二一五 全 上

二 獨立ノ生計ニ關スル行政裁判所判決例

獨立生計者ノ意義

市制第九條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スルノ義
ナルカ故ニ(大正三、四、三判決
大正三、七、七判決)

獨立生計者ノ推定

獨立ノ生活ヲ營ムニ足ル資産ヲ有スル以上反證ナキ限り獨立ノ生活ヲ營ム者ト

認ムヘキモノトス(大正七、七、三二判決
大正八、二、〇二四判決)

獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルノ資力ヲ有スル有ナルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナリ
而シテ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ル資力ヲ有スル者ハ獨立ノ生計ヲ營ム者ト推定ス
ルヲ相當トス(大正九、三、六判決)

自己及妻子ノ生計ヲ維持スルニ足ル財產ヲ有スル者ハ反證ナキ以上自己ノ經濟
ニ於テ生計ヲ維持セル者ト認ムヘキモノトス(大正三、四、三〇判決)

獨立生計者ト同居同炊

本條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經營ニ於テ生計ヲ維持スルノ義ナルカ
故ニ苟モ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スルノ事實アル以上ハ家族タルト同居同
炊ヲ爲ス者タルト否トヲ問ハス獨立ノ生計ヲ營ムモノトス(大正三、七、七判決)

養子ガ養父ノ家ニ在リテ同居同炊スルト雖トモ生計ヲ分別スルモノト認ムヘキ
以上ハ本條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ム者トス(大正三、七、九判決)

他人ト同居同炊スルモ自己ノ資力ニ依リ其家計ヲ支持スル者ハ本條第一項ニ所
謂獨立ノ生計ヲ營ム者トス(大正二、五、二二判決)

同居同炊ノ事實ハ以テ經濟ノ獨立ナルヤ否ヤヲ別ツノ標準ト爲スニ足ラス(大正
三、四、二〇判決)

獨立生計者ト他人ノ監督干涉

市制第九條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スルノ義
ナルカ故ニ苟モ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スル以上ハ他人ノ監督干涉ヲ受ク
ルト否トヲ問ハス獨立ノ生計ヲ營ムモノト謂ハサルヘカラス(大正三、四、三〇判決)

獨立生計者ト構戸

町村制第七條第一項ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ム者トハ必スシモ一戸ヲ構ヘ又ハ竈ヲ設クルコトヲ要スルモノニ非ス(大正二、二二、一一判決)

三 獨立ノ生計ニ關スル外國立法例 ナシ

第七 兵役義務ノ完了ニ關スル件

一 兵役義務ノ完了ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由

(一) 立法ノ沿革
未タ兵役義務完了者ニ選舉權ヲ與ヘタルモノナシ

(二) 法案ノ沿革

年次	大正一八年	備
國民黨案	陸海軍ノ現役ヲ卒ヘタル者	第四十一議會以後提出セラレタルモノナシ
		考

(三) 理由

(イ) 賛成論

國民トシテ兵役ノ義務ヨリ重大ナルモノハナク此ノ國家ノ重大ナル任務ニ當リ多クノ經驗ヲ得タル者カ政治ニ參與シ得サル理由ナシ(第四十一議會衆議院) 兵役ノ義務ヲ完了シ若ハ一身ヲ犠牲ニ供シテ國家ノ爲メ戰爭ニ從ヒタル者ニ對シ選舉權ヲ與フルハ權衡ヨリスルモ必要ナリ(大正五年選舉法調査會) (高木益太郎)

(ロ) 反對論

兵役ノ義務ヲ盡クス資格ト適當ニ參政スル資格トハ其ノ間自ラ相異ガアルベキト思フ(大正五年調査會) (木會長)

二 兵役義務ノ完了ニ關スル外國ノ立法例

選舉資格タル兵役義務ノ完了ノ要件ニ關シ外國立法例中參考ト爲ルヘキモノ少シ。唯伊太利ニ於テ一九一八年及其後ノ選舉法ノ改正ノ際ニ今次ノ大戰爭ニ參加セルモノニ對シテハ假令年齢滿二十一年ニ達セスト雖選舉權ヲ與ヘタル例アリ又英國ニ在リテモ一九一八年ノ國民代表法中ニ於テ今回ノ大戰爭ニ關係アル陸海軍投票人ヲ限リテ滿十九年ニ達シタルトキハ(他ノ資格ニシテ具備スレハ)完全ナル有權者トシテ登錄スヘキコトヲ規定セリ(全法第五條末項)仍勞農露國ニ於テソビエツトノ陸海軍兵士タルコトヲ選舉資格ノ一トナセルコトハ前述ノ如シ。

第八 戸主ニ關スル件

一 戸主選舉論ノ要旨

一家ノ戸主ニ選舉權ヲ與ヘヨトスル說ニ二アルカ如シ、一ハ民法上ノ戸主タルヘキモノニ選舉權ヲ與ヘヨトスル說ニシテ他ハ事實上一家ノ主腦タルヘキ者ニ選舉權ヲ與ヘヨト云フ說ナリ其ニ其ノ理論的根據ヲ我國ノ家族制度ニ置キ、戸主實際ニ於テ一家ノ代表者タルヘキモノナルヲ以テ戸主ヲシテ選舉權ヲ行使セシムルコト即チ六千萬國民ヲシテ凡テ選舉權ヲ行使セシムル所以ナリト云フニ在リ

- 二 戸主ニ關スル我國選舉法上ノ立法並法案ノ沿革 ナシ
- 三 戸主選舉權ニ關スル外國立法例 ナシ

第九 缺格者ニ關スル件

一 我國選舉法上ノ選舉權缺格者ニ關スル立法及法案ノ沿革
 (一) 立法ノ沿革

年次	法律	明	治	二	三	三	號	年	
一	選舉權ノ有	一	瘋癲白癡ノ者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
二	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
三	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
四	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
五	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
六	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
七	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
八	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
九	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ
十	瘋癲白癡ノ者	一	禁治產者及準禁治產者	二	身代限ノ處分ヲ受ケ	三	公債ノ利子受ケ	四	禁錮ノ刑ニ處セラレ

(參照)

(一) 貴族院伯子男爵議員選舉規則

瘋癲白癡ノ者、身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者(第三條)
 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ル迄選舉ヲ行

(二) 貴族院多額納稅者議員互選規則

瘋癲白癡ノ者、公債ノ利子受ケセラレタル者又ハ停止中ノ者禁錮ノ刑ニ處セラレ
 滿刑ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者、舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿
 期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者、衆議院議員ノ選舉ニ關スル犯罪ニ依
 リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者、陸海軍軍人ノ現役中(休職停職ヲ含ム)ノ者、
 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者其ノ裁判確定ニ至ル迄(第四條第五
 條第六條)

(三) 地方制度

(イ) 府縣制
 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時又ハ事變ニ際シ召集中ノ者
 市町村公民權停止中ノ者(第六條第六項第七項)
 市制、町村制

(ロ) 市制、町村制
 禁治產者準禁治產者、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、公費
 ノ救助ヲ受ケ二年ヲ經サル者(非公民)(市制第九條)
 租稅滯納處分中ノ者、家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨ
 リ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セ
 ラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル

迄ノ者(公民權停止者)
 陸海軍ノ現役ニ服スル者其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス(町村制第九條)

(ハ)北海道會法
 禁治産者及準禁治産者家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者租稅滯納處分中ノ者公費ヲ以テ、貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者(第五條)

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生生徒第六條)

(二)北海道一級町村制、向二級町村制

治産ノ禁ヲ受ケタル者、公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年(二級町村ハ一年)ヲ經サル者(非公民)公權停止中若ハ租稅滯納處分中ノ者破産ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪、輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキ其ノ裁判ノ確定ニ至ル迄ノ者(公民權停止者)

陸海軍ノ現役ニ服スル者現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス

(二級町村制第五條、第六條)
 (三級町村制第二十條、第二十一條)

(ホ)島嶼町村制

公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者及禁治産者準禁治産者(無權者)

公權停止中又ハ租稅滯納處分中ノ者家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄ノ者(選舉權停止者)

陸海軍ノ現役ニ服スル者及現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス(第二十七條、第二十八條)

(二)法案ノ沿革

年次	明	大	大	大
治三十二年	第十三次議會			
治四十五年	第二十八次議會			
正三十二年		第三十次議會		
正四十四年			第三十六次議會	
正四十七年				第四十次議會

政府案

一 瘋癲自疑ノ者
 二 禁治産者準禁治産者
 三 身代限ノ處分ヲ受ケタル者及家資分散ノ者ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 四 刑罰ノ執行ヲ受ケタルトキヨリ其ノ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

第十一條中左ノ通改
 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處テラレタル者及舊刑法ノ犯罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニテ之ヲ受ケタルトキヨリ其ノ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

(貴族院ニ於テ否決)

各國下院議員選舉缺格者一覽

(大正十一年十二月現在)

植原悦次 那外二名 提出案		第十一條第一號ノ 加へ二號以下ノ 二、貧困ノ爲官公費 若ハ慈善事業其 ノ他ノ救助ヲ受 ケテ生計ヲ爲ス 者及之ヲ受ケタ ル後一年ヲ經過 セサル者 第十二條第二項中 「官立、公立、私立 學校ノ學生生徒」 ヲ削ル
關直彦外 三名提出案		第十二條第二項中 「官立、公立、私立 學校ノ學生生徒」 ヲ削ル

第一 日 本	
禁治産者 破産者等	一、禁治産者及準禁治産者 二、身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散者ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定セルトキヨリ復権ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
處刑者等	一、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者 二、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄ノ者
華族	華族ノ戸主
陸海軍軍人	陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時又ハ事變ニ際シ召集中ノ者
學生生徒	官立公立私立學校ノ學生生徒
其他	

第二 英 國

禁治産者 破産者等	一、破産罪又ハ重罪ヲ犯シ死刑以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ヲ宣告セラレタル者(但シ其刑ノ執行ヲ終リ又ハ免除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス) 二、國會又ハ地方會議ノ選舉ニ當リ不正行爲ヲ爲シ有罪トナリタル者(七年間) 三、國會ノ選舉ニ當リ不正行爲ヲ犯シ即決處分ヲ受ケタル者(其ガカンナリ又ハボローニ於テ五年間) 四、國會ノ選舉ニ當リ候補者、候補者選舉代理人又ハ副代理人トシテ不法ナル雇傭支拂又ハ貸借ヲ爲シタル者 五、當該選舉ニ於テ不正行爲ハ不法ノ雇傭支拂若ハ貸借ヲ爲シタル者 六、地方議會ノ選舉ニ當リ不正行爲ヲ爲シ又ハ候補者、候補者選舉代理人若ハ副代理人トシテ不法ナル雇傭支拂若ハ貸借ヲ爲シ有罪トナリタル者(五年間) 七、地方議員、感化委員、救済委員ノ選舉ニ當リ不正行爲ヲ爲シ有罪トナリタルモノ(七年間)又ハ不法行爲ヲ爲シ有罪トナリタル者(五年間) 八、學務委員ノ選舉ニ當リ不正行爲ヲ爲シ有罪トナリタル者(六年間) 九、一八八九年ノ公共團體不正行爲法第二條ニ依リ二回有罪トナリタル者(七年間) 一〇、選舉裁判所又ハ選舉委員ニ依リ其選舉ニ於テ不正行爲アリト報告セラレタル者 一一、所謂コモンセンスガアチエクター(大戦中及戦後五年間)
處刑者等	
華族	貴族(女貴族ヲ除ク) 但シ愛蘭貴族ニシテ已ニ選舉セラレ且現ニ國會議員タル職ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス
陸海軍軍人	
學生生徒	一、特定ノ官職ヲ有スル者 二、選舉長、監督官、郡長、郡書記、市書記等 三、蘇格蘭ノカウンチー又ハボローノ收稅官、愛蘭ノ警察官 二、候補者ノ選舉代理人、副代理人、書記其他選舉ニ關シ候補者ニ雇傭セラレタル者ニシテ其雇傭ノ適法ナラサル者 三、投票ノ當時コンボス、メンブス、記號可能ノ狀態ニ在ラサル者(瘋癲、自癡等)
其他	

禁治産者 破産者等	一、禁治産者 二、破産宣告ヲ受ケ未タ復讐セラル者
處刑者等	一、懲罰及破産刑罰者ハ破産刑罰ノミナ科セラレタル結果其私權及公權ヲ剝奪セラレタル者 二、選舉權停止ヲ認メタル法律ヲ適用シ裁判所カ輕減裁判ニ依リ是等ノ權利ヲ停止シタル者 三、重刑ヲ犯シ刑法第四百六十三條ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者 四、刑法第四百二十三條及一八五一年三月二十七日法律第一條ニ依リ三月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者 五、刑罰ノ長短ニ拘ラス竊盜、詐欺、信用濫用、公金受寄者ノ橫領刑法第三百三十條及第三百三十四條ニ規定スル風俗ヲ害スル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者 六、一八一九年五月十七日法律第八條及一八四八年八月十一日布令第三條ノ適用ニ依リ公及宗教上ノ徳義若ハ善良ノ風俗ニ反スル犯罪並ニ所有權ノ原則及家族ノ權利ニ對スル侵害ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者 七、一八五二年二月二日立法議院議員選舉ニ關スル法律第三十二條第三十三條乃至第三十六條第三十八條乃至第四十一條第四十五條及第四十六條ニ依リ三月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者 八、浮浪罪又ハ乞丐罪ニ依リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者 九、刑法第四百三十九條第四百四十三條乃至第四百四十七條及第四百五十二條ニ依リ三月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者 一〇、刑法第四百十條及第四百十一條ニ依リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者 一一、監禁又ハ苦役ニ處セラレタル軍人 一二、憲兵令ニ關スル一八三二年三月二十日法律第三十八條第四十一條第四十三條及第四十五條ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者 一三、高利ノ罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者 一四、官權及公力ノ受任者ニ對スル叛逆、暴行、凌辱、其職務ニ付陪審官ニ對シ又ハ其供述ニ就キ證人ニ對スル公ノ凌辱、多衆集合ニ關スル法律、俱樂部ニ關スル法律、一八五一年三月二十七日ノ法律及行商ニ關スル法律ノ違反ニ因リ一月以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者（刑期満了後五年間） 一五、總テノ囚人及刑事上ノ犯罪ニ依リ訴追セラレタル者（選舉權行使停止）
陸海軍軍人	陸海軍人及陸海軍ノ總テノ階級並ニ兵種ノ相當官（選舉權行使停止）
華族	
學生生徒	

其 他

一、免職ノ判決又ハ決定書カ之ニ選舉權ヲ失フヘキ旨ノ宣告シタル場合ニ於テ其免職セラレタル辯護士、公證人、執達吏

二、選舉權ノ喪失ガ免官ト同時ニ判決又ハ裁判上ノ決定ニ依リ明ニ定メラレタル場合ニ於テ其免官セラレタル裁判所書記

三、癲狂院ニ入院申ノ者（選舉權ノ行使停止）

第四 獨 逸

禁治産者 破産者等	一、禁治産者 二、假後見ニ附セラレタル者精神上ノ故障ノ爲メ保佐ヲ受ケル者 三、精神上ノ疾病又ハ心神耗弱ノ爲メ療養所又ハ保育院ニ收容セラレタル者（選舉權停止）
處刑者等	一、確定判決ヲ以テ市民榮譽權ヲ剝奪セラレタル者 二、既決未決ノ囚人（其期間中選舉權停止）裁判所又ハ警察ノ命令ニ依リ留置セラレタル者（但シ政治上ノ理由ニ因リ監禁セラレタル者ハ此ノ限リニ在ラス）
華族	
陸海軍軍人	陸海軍軍人ニシテ軍務ニ服スル者
學生生徒	
其他	

第五 普 魯 西

禁治産者 破産者等	一、禁治産者 二、假後見ニ附セラレタル者、又ハ精神上ノ故障ノ爲メ保佐ヲ受ケル者 三、精神上ノ疾病又ハ心神耗弱ノ爲メ療養所又ハ保育院ニ收容セラレタル者
處刑者等	一、市民榮譽權ヲ剝奪セラレタル者 二、既決未決ノ囚人及裁判所又ハ警察ノ命令ニ依リ留置セラレタル者（但シ政治上ノ理由ニ因リ監禁セラレタル者ハ此ノ限リニ在ラス）

華族
陸海軍軍人 陸海軍軍人ニシテ軍務ニ服スル者
學生生徒
其他

第六 北米合衆國	
破治産者等	一、重罪犯人(全洲) 二、賄賂者 (アラバマ、カリフォルニア、コンネチカット、テラウエア、フロリダ、カンザス、ケンタッキー、メーン、ミネソタ、ミシシッピ、ニューヨーク、ペンシルヴァニア、ロードアイランド、サウスカロリナ、ヴァージニア、ウエストバージニア、テキサス)
處刑者等	三、選挙犯罪 (アラバマ、アイダホ、マサチューセッツ、サウスカロリナ、ユタ) 四、決闘 (カリフォルニア、フロリダ、カンザス、サウスカロリナ、テキサス、ウイスコンシン) 五、濫職 (ノースカロリナ、カンザス) 六、不正行爲 (アラバマ、アルカンサス、フロリダ) 七、選挙ニ關スル賄賂 (フロリダ、ウイスコンシン) 八、浮浪者 (アラバマ) 脱走者 (ヴァモント) 九、罰金刑ニ處セラレタル者 (イリノイス)
華族	
陸海軍軍人	(インディアナ、ミッソーリ、ネブラスカ、ノースダコタ、オレゴン、テキサス、ウエストバージニア)
學生生徒	

其他	一、癡呆者(全洲) 二、癡狂者(全洲) 三、後見ニ附セラ (アリゾナ、アイダホ、コロラド、メーン、マサチューセッツ、ミネソタ、ノースダコタ、ロードアイランド、サウスカロリナ、ウイスコンシン、サウスダコタ) 四、慈善病院 (ロイジアナ、貧民收容所ノ收容者、オクラホマ、救護ヲ受ケタル貧民(テラウエア、ミッソーリ、ニューハンプシャー、ニュージャージー、ロウヰアイルランド、サウスカロリナ、ヴァージニア) 支那人 (カリフォルニア、ネバダ、カレゴニア) いんぢあ (本開ナル者(ミネソタ)、課税セラレサル者(メーン、ウァシントン、ニューメキシコ、ミシガン、ネバダ、モントナリーナ、ロードアイランド) 納税ヲ爲ササル者(ニューハンプシャー) 租税滞納者(ミシシッピ、ジョージア) 多妻主義ノ宣傳者(アイダホ)
----	--

第七 奧太利 (一九一八年十二月十八日發布セラレタル憲法制定國民議會選舉法ニ依ル)

破治産者等	一、禁治産者及準禁治産者
處刑者等	一、窃盜、公金消費、詐欺、情交、媒介、千八百八十一年五月二十八日法律第一條、千九百十四年五月二十日勅令第二、三、四條、千八百八十三年五月二十五日法律第一條ノ犯罪行爲、千八百八十五年五月二十四日法律第一、二、三、四、五條ノ違反ニ因リ所罰セラレタル者、職業的淫實ノ爲ニ處罰セラレタル婦人 二、選挙ノ自由ヲ保護スル刑事上ノ規定ニ違反シタルニ因リテ處罰セラレタル者 三、禁錮又ハ懲役ニ處セラレタル者(其期間中及其後三年間) 四、裁判所ヨリ其子女ニ對スル父權ヲ剝奪セラレタル者(子女カ他人ノ後見ノ下ニ在ル期間何レノ場合ニ於テモ判決後三年間) 五、飲酒ノ爲ニ二回以上禁錮ニ處セラレタル者(最後ノ刑期満了後三年間) 六、風俗警察監視ノ下ニ在ル婦人
華族	
陸海軍軍人	
學生生徒	

其他

第八 瑞 四

禁治産者 破産者等	一、禁治産者又ハ保佐人ヲ附セラレタル者 二、破産者
處刑者等	公權剝奪ノ刑ニ處セラレタル者
華族	
陸海軍軍人	
學生生徒	
其他	一、選舉人ノ住所ヲ有スル州以外ニ於テ參政權ヲ行使スル者 二、外國ノ公務ニ服スル者

一 下院議員選舉權者數ト人口數トノ割合

國名	人口總數	有權者總數	人口ニ對スル有權者ノ百分比	備考
日本	五三、三二八、六八二	三、〇三八、〇九二	五、四	大正九年現在
英吉利	四五、五七四、九六三	二一、七七五、五八三	四七、七	一九一九年現在

第一〇 各國下院議員選舉權ノ内容並ニ沿革及投票ノ狀況ニ關スル統計

國名	人口總數	有權者總數	人口ニ對スル有權者ノ百分比	備考
佛蘭西	三九、二〇九、七六六	一〇、八六三、四二一	二七、四	一九一九年現在
獨逸	五九、八五七、二八三	概數 三六、七七七、〇〇〇	六〇、〇	一九一九年現在
普魯西	三七、〇七五、二四〇	概數 二二、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇	一九一九年現在
伊太利	三六、〇九九、六五七	一一、八二二、一六八	三三、〇	一九二〇年現在
北米合衆國	一〇五、七二〇、六二〇	概數 四四、五〇〇、〇〇〇	四二、〇	一九一九年現在
白耳義	七、四二三、七八四	一、七七〇、一九二	二三、八	一九一九年現在

一九一九年現在(白國三普通選舉制ヲ施行セルハ一九一九年)有權者總數 一、七七〇、一九二

二 各國下院議員選舉資格要覽

國名	身分	性	年齡	住居要件	納稅要件	其他ノ要件	備考
英	國民	男子	二五年	六箇月以上同一選區内に住居スルコト	一年以上直接納稅	資格期間中一選舉区内ニ居テ下ラサルニ年收十磅ヲ有スルコト	大正八年法律第六〇號
吉	國民	男子	二二年	資格期間中一選舉区内ニ住居スルコト	一年以上直接納稅	資格期間中一選舉区内ニ居テ下ラサルニ年收十磅ヲ有スルコト	一九一八年

濠洲聯邦	加奈陀	諸威	瑞典	和蘭	西班牙	波蘭	種東共和國	チエツクソロバツキヤ	露西亞
公民男女	公民男女	公民男女	國民男女	國民男女	國民男子	公民男女	公民男女	國民男女	市民男女
二二年	二二年	二三年	二三年	二三年	二五年	二二年	一八年	二二年	一八年
居有定ノ期間以上	居有定ノ期間以上	引續キ五年以上	引續キ五年以上	同一年以上	同一年以上	選挙ナ公布シタル選挙区内ニ居スルコト	選挙ナ公布シタル選挙区内ニ居スルコト	選挙ナ公布シタル選挙区内ニ居スルコト	ソビエツト共和國內ニ住居スルコト
									(イ) 有行ナル労働ナ爲スル者又ハ之ヲ補助スル者又ハ之ヲ爲人ナシタル農夫又ハ農夫ノ利益ヲ保護スルコトノ陸海軍兵士 (ハ) 兵士ニ屬スル市民 (ニ) 労働能力ヲ失ヒシモノ
新憲一九二〇年法	新憲一九二〇年法	改正選舉法一九二二年	改正選舉法一九二三年	改正選舉法一九一九年	改正選舉法一九一九年	改正選舉法一九一九年	改正選舉法一九一九年	改正選舉法一九一九年	新憲一九一八年法

奧太利	瑞西	白耳義	伊太利	北米合衆國	普魯西	獨逸	佛蘭西	利
國民男女	公民男子	國民男子	國民男女	公民男女	邦民男女	國民男女	公民男子	大學 國民男子 選舉 國民女子
二〇年	二〇年	二二年	二二年	二二年	二〇年	二〇年	二二年	二二年
所有一投票区内ニ住居スルコト	所有一投票区内ニ住居スルコト	六ヶ月以上同一市町村内ニ住居スルコト	六ヶ月以上同一市町村内ニ住居スルコト	州郡町村等ニ付若干期間ノ居住ヲ要件トセリ	州郡町村等ニ付若干期間ノ居住ヲ要件トセリ	州郡町村等ニ付若干期間ノ居住ヲ要件トセリ	州郡町村等ニ付若干期間ノ居住ヲ要件トセリ	州郡町村等ニ付若干期間ノ居住ヲ要件トセリ
				若干ノ州ニ於テ財產所有又ハ人頭税納付ヲ要件トセリ	若干ノ州ニ於テ財產所有又ハ人頭税納付ヲ要件トセリ	若干ノ州ニ於テ財產所有又ハ人頭税納付ヲ要件トセリ	若干ノ州ニ於テ財產所有又ハ人頭税納付ヲ要件トセリ	若干ノ州ニ於テ學位有スルコト
新憲一九二〇年法	新憲一九二〇年法	改正選舉法一九二二年	改正選舉法一九二二年	改正選舉法一九二〇年	改正選舉法一九二〇年	改正選舉法一九二〇年	改正選舉法一九二〇年	國民代表法

愛	希	土	國
關	臘	耳	名
公民	國民	古	身分
男女	男子	男子	性
二年	二年	二年	年齡
現行英國選舉法ニ定ムル要件ヨリ具備スルコト			住居要件
全		相接國稅ヲ納ムルコト	納稅要件ハ
全			其ノ他ノ要件
上			備考
憲法草案	一九二二年六月發表ニカハル		

備考

- (一) 符號「」ハ其ノ要件ニ該當スル要件ナキヲ意味ス
- (二) 空欄ハ有無ノ不明ナルモノナリ

三 各國ニ於ケル選舉制度發達ノ沿革

一、日本ニ於ケル選舉制度沿革一覽表

制度	年代	制限又ハ普通	選舉ノ間接又ハ直接	選舉區ノ大小	單記又ハ連記
明治二十二年法律第三號		制限	直接	原則トシテ小	原則トシテ單記
明治三十三年法律第七十三號		全上	全上	大	單記
大正八年法律第六十號		全上	全上	原則トシテ小	全上

秘密又ハ公開	性	年齡	住所	納稅ノ要件
記名捺印	男子	二十五年	一年以上其ノ府縣内ニ本籍ヲ定メ住居スルコト	一年以上直接國稅十五圓以上ヲ納ムルコト 但所得稅ハ三年以上ノコト
無記名	全上	全上	一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有スルコト	(イ) 一年以上地租十圓以上ヲ納ムルコト (ロ) 一年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上ヲ納ムルコト (ハ) 地租ト其他ノ直接國稅ヲ納ムルモノニ付テ同前
全上	全上	全上	六ヶ月以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スルコト	一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト

二、英蘭ニ於ケル選舉制度ノ沿革一覽表 (大學選舉區ノコトハ省略ス)

制度	年代	制限又ハ普通	選舉ノ間接又ハ直接	選舉區ノ大小	單記又ハ連記	投票ノ記名又ハ秘密	男女ノ別	年齡ノ要件
制限	第十七八世紀	全上	直(原則トシテ)接	大選舉區(二名)	一定ノ制度ナシ	(原則トシテ)公開記名	男子	—
全上	一八三二年	全上	全上	全上	單記	全上	全上	—
全上	一八六七年	全上	全上	全上(例外多シ)	全上	全上	全上	—
相對的普通	一八八四、五年	全上	全上	小選舉區	全上	一八七二年ヨリ秘密	全上	—
普通	一九一八年	直接	全上	全上	全上	全上	男子 女子	二十 二十一 歳

住居ノ要件	ナシ	全上	市縣一年	(原則トシテ)	六ヶ月
比例代表制	縣 年收四〇志ノ土 地所有 市 區々ナリ多クハ 土地又ハ建物所 有	縣(原則トシテ) 一年收一〇勞ノ土 地ノ所有者又ハ (一)長期ノ占有者 (二)年收五〇勞ノ土 地ノ短期ノ占有者 市(原則トシテ) 年收一〇勞ノ家 居ノ占有者	市 年收一〇勞ノ住 家ノ占有者 房ノ占有者	(一)土地ノ所有者(縣 ノミ) (二)住家ノ占有者 (三)年收一〇勞ノ住 居ノ占有者 (四)年收一〇勞ノ建 物ノ占有者	(一)男子(要件) 住居ヲ有スル者 (二)年收一〇勞ノ家 屋ヲ占有スル者 (三)大學選舉區ニテ ハ學位アル者 (四)女子(要件) 一地方議會選舉人 タル資格アル者 又ハ其資格アル 男子ノ妻 (二)大學選舉區ニ付 テハ男子ト全シ

(備考)

一、一八八四五年制限又ハ普通欄中相對的普通トアルハ財産上ノ制限ノ最
低限住家ノ占有又ハ一定ノ價格アル住家ノ占有(間借人又ハ下宿人)ニシ
テ大多數ノ國民ハ此ノ要件ヲ具備スルカ故ニ解釋ノ如何ニ依リ普通選
舉ト稱シ得ルノ義ナリ

二、財産上ノ要件ハ各欄ヲ通シ各號ノ一ニ該當スルヲ以テ足ル

三、佛國ニ於ケル選舉制度沿革一覽表 (間接選舉ニ付テハ原選舉人ノ資格ヲ掲グ)

年代/制度	制限又ハ普通	投票ノ直接又ハ間接	選舉區ノ大小	單記又ハ連記	年	納	稅	住	所	比例代表制及其他ノ制度
一七九一年 憲法第一ノ年	制限	間接	不明	不明	二十五歲	三日間ノ勞働ニ等シキタクノ直接稅	住	一年		

一七九二年	普通	間接	—	—	二十一歲	ナシ	—	公住六ヶ月	家僕タラサルコト
一七九三年	普通	直接	小	單記	二十一歲	ナシ	—	公住六ヶ月	(不實施)
一七九五年	制限	間接	—	—	二十五歲	若干ノ直接稅	—	公住一年	公民タルニハ家僕 タラサルコト及 ミ書キテナシ得ル コトヲ要件トス
一八二四年 欽定憲法	制限	直接	小	單記	三十歲	年額三百法	—	—	—
一八二〇年	"	"	大小併 セ行フ	單連併 セ行フ	"	各縣ニ於ケル有權者 ノ納稅總額ノ四分ノ 一ヲ納ムル者ニハ各 票ノ附加權ヲ與ヘ 別ニ連記ノ方法ヲ 用テ別ニ選出セ シム	—	—	此ノ制度ニヨリ多 額ノ稅者ニヨリ選 出セラルル議員ハ 普通ノ議員三五八 人ニ對シテ七二八 人ニ對シテ六割以 上ニ當レリ
一八三〇年 七月革命ノ 結果	制限	直接	小	單記	二十五歲	年額二百法	—	—	但シ學士會員及或 ノ階級ヲ以テ足ル
一八四八年 二月革命ノ 結果	普通	"	大	連記	二十一歲	ナシ	—	公住六ヶ月	—
一八四九年 三月	普通	直接	大	連記	二十一歲	ナシ	—	公住六ヶ月	—
一八五〇年 五月	"	"	"	"	"	ナシ	—	定住三年	—
一八五一年 十二月	"	"	"	"	"	ナシ	—	定住六ヶ月	—
一八五二年 二月	"	"	小	單記	"	ナシ	—	"	—
一八七五年 十一月	"	"	"	"	"	ナシ	—	"	—

年代/制度	制限又ハ普通	投票ノ直接又ハ間接	選挙区ノ大小	単記又ハ連記	年 齢	納 税	住 所	比例代表制及其他
一九二九年七月	ク	ク	大	連記	ク	ナシ	ク	ク
一九一九年	ク	ク	大	連記	ク	ナシ	ク	ク

四、埃太利ニ於ケル選挙制度沿革一覽表

年代	制限又ハ普通	投票ノ直接又ハ間接	選挙区ノ大小	単記又ハ連記	年 齢	納 税	住 居
一九二〇年	全上	全上	大	連記	全上	全上	一投票区内ニ住居スルコト
一九〇七年	普通	全上	小	單記	全上	ナシ	一ヶ年(全上)住居スルコト
一九〇六年	普通	全上	上	上	全上(五級)	ナシ	一ヶ年(全上)
一八八二年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	六ヶ月(全上)
一八七三年	制限	直 接	大	單記?	全上	一級乃至四級	ナシ
一八七二年	全上	間接(補欠選挙)	大	全上	全上	一級乃至四級	ナシ
一八七〇年	全上	間接	大	全上	全上	一級乃至四級	ナシ
一八六〇年	全上	間接	大	全上	全上	一級乃至四級	ナシ

年代	制限	男女ノ別	比例代表制
一九二〇年	全上	男女	比例代表
一九〇七年	全上	男子	比例代表
一八九六年	全上	一級三級	比例代表
一八八二年	全上	全上	比例代表
一八七三年	全上	一級ハ男女ヲ間ハス	比例代表
一八七二年	全上	一級ハ男女ヲ間ハス	比例代表
一八七〇年	全上	一級ハ男女ヲ間ハス	比例代表
一八六〇年	全上	一級ハ男女ヲ間ハス	比例代表

備考

一八九六年制限又ハ普通欄ニ二種ノ普通トアルハ一般ニ二十四歳以上ノ男子ハ選挙権ヲ有スト雖モ等級選挙制度ニシテ各一票ノ價值ハ階級ノ如何ニヨリ大差アルヲ以テ通常ノ意義ニ於ケル普通選挙ト異ルヲ示セリ

五、自耳義ニ於ケル選挙制度沿革一覽表

年代	制限	投票ノ直接又ハ間接	選挙区ノ大小	単記又ハ連記	年 齢	納 税	住 居
一九二一年十月	全上	全上	大	連記	全上	全上	一投票区内ニ住居スルコト
一九二〇年	全上	全上	大	連記	全上	全上	一投票区内ニ住居スルコト
一九〇七年	全上	全上	小	單記	全上	全上	一ヶ年(全上)住居スルコト
一八九九年十二月	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八九三年九月	普通	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八八二年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八七三年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八七二年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八七〇年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)
一八六〇年	全上	全上	上	全上	全上	一級乃至四級	一ヶ年(全上)

比例代表制	要件	其ノ他ノ	教育	納税	財産	制度	年代
	乙、官位官職ヲ有スルコト	最低 一三〇 デング	最低 一五〇 デング	最高 一五〇 デング	甲、一定額ノ納税	一八三〇年十月	一八三〇年
		最低 二〇 デング	最低 一〇 デング	最高 一〇 デング	税一定額ノ納	一八三二年	一八三二年
			租税 二〇 デング			一八四八年	一八四八年
			全			一八八一年	一八八一年
			上			一八九三年九月	一八九三年九月
	乙、法律ノ職業ニアルコト		三級甲、大學又ハ高等學校卒業 乙、法律ノ職業ニアルコト	二級甲、五法以上ノ租税ヲ納メスルコト 乙、二千法ノ土地ヲ有スルコト	一級制限ナシ 甲、五法以上ノ租税ヲ納メスルコト 乙、二千法ノ土地ヲ有スルコト	一八九九年十二月	一八九九年十二月
比例代表			全	上	ナ	一九二二年十月	一九二二年十月
全							
上							

四 各國ニ於ケル投票ノ狀況

第一日 本 (地方局調査)

年總選	次舉	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
明治四十五年五月		一、五〇三、六五〇	一、三五一、七九三	八九、九〇	選舉資格 二十五年以上ノ男子ニシテ同
大正四年三月		一、五四六、三四一	一、四二四、六九五	九二、一三	一選舉区内ニ一年以上住居シ直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
大正六年四月		一、四二二、一一八	一、三〇七、一六七	九一、九二	
大正九年六月		三、〇六九、七八七	二、六六一、五九一	八六、七〇	一選舉区内ニ六ヶ月以上住居シ直接國稅三圓以上ヲ納ムル者

第二 英吉利 (一九二二年版憲法年鑑ニ依ル)

年總選	次舉	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一八八五		五、七〇七、五三一	四、三九一、九五二	七六、九	男子普通選舉
一八八六		五、七〇七、五三一	二、七六四、八九六	四八、四	
一八九二		六、二二一、三〇七	四、三四九、七七八	七一、〇	
一八九五		六、三三三、四五四	三、六二二、二二三	五七、二	
一九〇〇		六、七三三、六一三	三、二七八、五八三	四八、六	
一九〇六		七、二六六、七〇八	五、六三一、六九八	七七、四	
一九一〇	上	七、七〇五、六〇二	五、二三四、二九三	八七、〇	男子普通選舉
一九一八	下	二一、三九三、三三三	一〇、七八八、六三九	五八、九	女子制限選舉
一九二二					

(附記) 一九一〇年及一九一八年度ニ付キテハ投票ノ百分比ハ無競争地ノ分ヲ除外シテ算出セルモノナリ

第三 佛 蘭 西 (政治議會評論ニヨル)

年總選次	有權者總數	投票者總數	有權者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一八七七			八一、〇	男子普通選舉
一八八一			六九、〇	全
一八八五			七七、〇	全
一八八九			七七、〇	全
一八九三			七〇、〇	全
一八九八			七六、〇	全
一九〇二			七六、八	全
一九〇六			七七、五	全
一九一〇	一一、三三〇、〇〇〇	八、七八六、〇〇〇	七七、五	全
一九一四	一一、二四一、五四七	八、四〇一、二六〇	七五、四	全
一九一九	一〇、八六三、四二一	六、七三〇、〇〇〇	六二、〇	全

第四 獨 逸 (獨逸統計年鑑等ニヨル)

年總選次	有權者總數	投票者總數	有權者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一八七一	七、六五六、七四五	三、八八八、〇九五	五、〇七八	男子普通選舉
一八七四	八、五二三、九八四	五、一九〇、二五四	六〇、八九	全
一八七七	八、九四三、五六八	五、四〇一、〇二一	六〇、三九	全
一八七八	九、一二四、〇八五	五、七六〇、九四七	六三、一四	全
一八八一	九、〇九〇、一五七	五、〇九七、七六〇	五六、〇八	全
一八八四	九、三八三、五二四	五、六六二、九五七	六〇、三五	全
一八八七	九、七六九、三三〇	七、五四〇、九三八	七七、一九	全
一八九〇	一〇、一四五、三三三	七、二二八、五四二	七一、二五	全
一八九三	一〇、六二八、七七一	七、六七三、九七三	七二、二〇	全
一八九八	一一、四四一、三九九	七、七五二、六九二	六七、七六	全
一九〇三	一二、五三〇、四六四	九、四九五、五八六	七五、七八	全
一九〇七	一三、三五二、四九四	一一、二六二、八二九	八四、三五	全
一九一二	一四、二三六、七三三	一二、一八八、三三七	八四、五三	全
一九一九	一六、七八四、〇〇〇	三〇、五二五、〇〇〇	八三、〇〇	男女普通選舉

年總選	次擧	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一九二〇	概數	三六、七七七、〇〇〇	二六、〇二八、三六二	七〇、三	全
一九二一	概數	三六、七七七、〇〇〇	二七、六七三、一〇四	七五、八	全

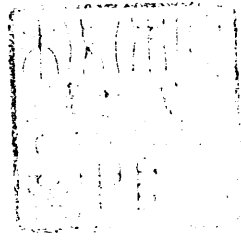
第五 伊 太 利 (Carabinieri della Divisione Generale della Polizia Roma 1914ニヨル)

年總選	次擧	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一八七〇		五三〇、〇一八	二四〇、九七四	四五、五	
一八七四		五七一、九三九	三一八、五一七	五五、七	
一八七六		六〇五、〇〇七	三五八、二五八	五九、二	
一八八〇		六二一、八九六	三六九、六二四	五九、四	
一八八二		二、〇一七、八二九	一、三三三、八五一	七〇、七	
一八八六		二、四二〇、三三七	一、四一五、八〇一	五八、五	
一八九〇		二、七五二、六五八	一、四七七、一七三	五三、七	
一八九二		二、九三四、四四五	一、六三九、二九八	五五、九	
一八九五		二、一〇〇、一八五	一、二五一、三六六	五九、〇	
一八九七		二、二二〇、九〇九	一、二四一、四八六	五八、五	

年總選	次擧	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一九〇〇		二二四八、五〇九	一一、三一〇、四八〇	五八、三	
一九〇四		二、五四一、三二七	一、五九三、八八六	六二、八	
一九〇九		二、九三〇、四七三	一、九〇三、六八七	六五、八	
一九一三		八、四四三、三〇五	五、一〇〇、六一五	六〇、四	男子普通選舉
一九一九	十二月	九、五五四、二七三			

第六 北米合衆國 (一九二二年版世界年鑑ニ依ル)

年總選	次擧	有権者總數	投票者總數	有権者數ニ對スル投票者數ノ百分比	備考
一九一八	概數	二四、〇二四、〇〇〇	一三、〇七九、二六一	五四、四	男子ハ普通選舉ニシテ女子ニ選擧權ヲ認メタル州ハ十一ナリ
一九二〇	概數	四四、五〇〇、〇〇〇	二五、三三八、三五〇	五六、九	男女普通選舉
一九二二					



被選舉權ニ關スル調査資料

衆議院議員選舉法調査會